

薄暮時間帯における交通事故防止

薄暮時間帯は、周囲の視界が徐々に悪くなり、自転車や歩行者などの発見が遅れたり、距離や速度が分かりにくくなることが原因で、交通事故が多発する危険な時間帯と言われています。

自動車を運転なさる方は、前照灯を早めに点灯しましょう。
また、歩行者や自転車利用者は明るい服装にしたり、反射材・ライトを活用して、自分の存在を周囲に知らせるようにしましょう。



薄暮時間帯における死亡事故発生状況

「 令和2から令和6年までの5年間における死亡事故発生状況の分析 」

- 日の入り時刻と重なる17時台から19時台に多く発生している
- 薄暮時間帯には、自動車と歩行者が衝突する事故が最も多く発生している
- 事故の類型別では、横断中が約8割を占めている
- 横断場所の内訳では、横断歩道以外での発生が約7割であり、その内約7割が法令違反である

事故分析：警察庁交通局

薄暮時間帯における前照灯の早め点灯



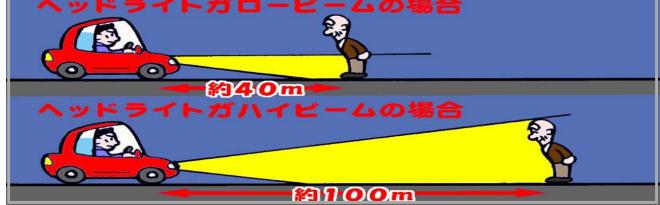
運転者の中には、周囲が見えづらくなっても前照灯を点灯せず、前方が見えなくなってはじめて点灯するケースが見られます。しかし、その段階では、他の車や歩行者が自分の車の存在を認識するのが遅れたり、気付かず行動するなどして、交通事故につながるおそれがあります。事故を防止するために、**前照灯を早めに点灯して速度を落としましょう。**

◇ 前照灯を早めに点灯しましょう

薄暗くなる前から前照灯を意識的に使用する「前照灯の早め点灯」を行い、自分の車の存在を周囲に知らせるようにしましょう。

◇ 速度を落としましょう

薄暮時間帯は、昼間と比較して周囲の視界が悪くなり始め、事故が多く発生するところから、速度を落として、周囲の交通の状況に一層注意して慎重な運転を心掛けましょう。



周囲の視界が悪くなる、薄暮時間帯※や夜間。 「光」の活用で、自分の存在をキラッとアピール。

交通事故が発生しやすい薄暮時間帯。

周囲の視界が悪くなり、クルマや自転車、歩行者の発見がお互いに遅れるためです。

ライトや反射材用品を活用し、自分の存在を周囲に知らせましょう。

クルマ 早めのライト点灯、ハイビームのこまめな切り替えを。



●早めにライトを点けて、自分の車の存在を周囲に知らせましょう。

●ハイビームを上手に活用して、遠くの歩行者を早めに発見しましょう。

●速度を落として、慎重な運転を心がけましょう。

■ハイビームとロービームの照射距離の差は約60m。ハイビームを活用することで、歩行者などを早期に発見できます。



ハイビーム約100m



ロービーム約40m



歩行者・自転車 反射材用品・LEDの活用と早めのライト点灯を。



●反射材用品やLEDライトを活用して、クルマの運転者から見やすくなるようにしましょう。

●自転車も、早めにライトを点灯しましょう。

●薄暮時間帯や夜間は、自動車の距離や速度が分かりにくくなることが多いので、横断するときや自動車とすれ違うときは、昼間と比べて一層注意しましょう。



反射材用品
LED使用例

※薄暮時間帯とは、日没時刻の前後1時間といいます(日没時刻は、月日や都道府県により異なります)。